

6. 地いきのお店

1. むかしの町のようす

大和（なら県）にみやこがあったころ、伊勢神宮と大和をむすぶおもな道が名張を通っていました。

え戸時だいになると、お伊勢まいりをする人びとや、しなものを売り歩く人などで、かい道はいっそうにぎやかになり、「初瀬街道」とよばれるようになりました。



え戸時だいの黒田ばしと新町ばし
『伊賀国名勝図』

一休みできる小さな店（茶店）、りよかん（はたご）などもたくさんでき、また、とのさま（大名）がとまる場しょ（本じん）も今の鍛冶町につくられ、名張はしゆく場町としてさかえました。

花火でにぎわう新町ばしと黒田ばしの間には、今もえ戸時だいの道しるべがのこっています。



げんざいの黒田ばしと新町ばし



え戸時だいの道しるべ



ひだり 左あめがたき（いまの赤目滝のこと）
みぎ 右はせならみち

2. むかしからあるお店

しゆく場町としてさかえた名張の町は、人びとのあつまるお店が多く立ちならびました。お店のき先にえん台をおいて、ゆかたすがたの人びとがしょうぎをさしたり、いごをうったり、お茶をのみながらわらって語り合ったりしました。また、しょう店がいの通りは、子どもたちのあそび場でもありました。しょう店がいは、大人たちにとっても子どもたちにとっても、人びととのつながりの場、ふれあいの場でした。

川の水がきれいな名張には、さけづくりのお店、わがしやさん、木ざいのお店など、さまざまなお店があります。え戸時だいから今もつづいているお店もあります。



1974（昭和49）年の名張のまちなみ

3. お店と市みんのくらし

名張えき前は、電車やバスを利用する人が多くあつまり、バスや車もよく通ります。食どうや食りょうひん・日用ひんなどを売るお店があつまり、むかしは一日中買い物きやくでにぎわっていました。

桔梗が丘の町を通りぬけて走る国道165号ができてからは、名張市のあちこちに、じゅうたく地もどんどん広がりました。国道の近くには大がたのスーパーマーケットや、レストラン、ようふくの店などつぎつぎと新しいお店ができてきました。コンビニエンスストアなど、24時間買いものができるお店もふえてきています。



地いきの中にどのようなお店があるのかしらべてみよう。



あたらしいお店

【→P13】